

遊便

遊便（第6号）
発行：医療法人仁風会
発刊日：平成26年4月3日

巻頭言

指定障害福祉サービス事業所「コスモス」

所長 吉田 通代

私たちの住む島根県は他県に比べ大きな災害も無く穏やかな土地柄と感じておりましたが、昨年は、江津市から津和野町にかけての県西部で集中豪雨の被害により、今なお交通網が一部復旧していない状況があると聞きます。一日も早く復旧されますよう願ってやみません。我が国は、災害時には自衛隊や民間ボランティアなどによる食料品、日用品などの物質的な支援や傷ついた心を支援する活動が迅速に行われる素晴らしい国だと感じています。そうした精神面における支援は物質的な支援とは違い、形がないぶん、定義することがとても難しいことであると私は考えています。支援する側が良かれと思いついても、支援を受ける側が良かったと感じているのか；支援をすることで、相手を困らせてしまうこともあるのではないかと考えてしまいます。

私の勤める指定障害福祉サービス事業所「コスモス」では、回復途上にある精神障がい者の方に、地域で自立した生活を営むことができるようにするために生活訓練ができる場所を提供し、その人らしい社会生活が送れるよう助言や指導などを行っています。例えば、利用者の方から「自立したい」との希望があれば、いっしょに考えながら、課題に整理をし、訓練を進めて行きます。経済的自立、精神的自立、生活全般（家事等）の自立

など社会で生活する上での「本当の自立」とは何かを考えてもらう時間です。

この時に、利用者の方への支援を間違えると社会生活を上手に送ることができなくなることもあります。支援者だからといって全てのことを支援者が手伝ってしまうと、その方が本来持っている考える力、行動する力、自信をもつ力までも奪ってしまい、支援者だったはずの職員は「支配者」になり、支援したいという気持ちがかえって利用者の方の生活訓練を妨げてしまうことになってしまいます。支援する際にこちらの価値観を押し付けてはいけません。そこで、「コスモス」では、精神面での支援や価値観など形のない支援についてスタッフ同士でそれぞれの考えをぶつけあい、本当にその利用者の方にとって適切な支援が行えているかを常に検証するように努めています。

先日、「コスモス」を無事卒業され、自立して社会生活を送られている方から、「裁縫を習っていた、役に立ったよ。ズボンの穴を縫うことができました」と笑顔で報告してくださいました。本当に嬉しく感じました。「最適な支援」とは利用者の方一人一人違うかもしれませんが、たくさんの方の中で共通することは、「コスモス」を卒業された方の笑顔が増えることだと感じています。今後も利用者の方の笑顔がもっとも増えるように、スタッフ一丸となって支援の質を高める努

遊便第6号：もくじ

巻頭言	1
法人内委員会紹介	2
あじさいの会 活動報告	5
たまごさんからの お便り	6
ミニクイズ	6
地域連携を 考える	7
法人アクセス	8



院内委員会 紹介

より良い医療の提供を目指して ～医療安全委員会の取り組み～

角南 眞

当院の医療安全委員会は病院のみにとどまらず、同じ法人内のグループホーム、生活訓練施設、デイケアなどのスタッフも委員に加わり、職種としては、医師、看護師、薬剤師、栄養士、ソーシャルワーカー、作業療法士等で構成されています。

具体的な役割としては主に…

1) インシデント(ニアミス、ヒヤリ・ハット事例)、医療事故等に関する資料の収集と職員への周知を図る。

2) 職員研修の企画実施をする。
3) 医療事故発生時の対応管理及び再発防止のための対策の立案、推進、周知を図る。

…ということであり、これらを通じて安全管理体制を整えることが大きな目的になります。

今回は、1)に挙げたインシデント情報の収集についてご紹介したいと思います。

インシデントの報告は、既定の報告書に記入して提出する形で行われていますが、報告書の書式を少

しずつ見直したり、報告の意義を職員に繰り返し伝えることによって報告内容の充実と報告件数の増加を目指しています。

この広報誌は一般の方も読まれることがあると聞いていますので誤解の無いよう少し説明をさせていただきます。(医療関係者でも誤解している方が少なくないのが現実ですが…)

インシデントレポート(ヒヤリハット報告書などとも呼ばれます)は、間違いや物品の不具合など(つまりエラー)から、望まない結果に結びつくかもしれない過程が発生してしまったことを病院に報告するものです。大きな有害事象に至ってしまった場合は事故報告という形になりますので、インシデントレポートはその手前で止められた事例ということになります。私たち医療安全委員会は、このレポート件数が多いほど良しと考えます。これには何か違和感を感じられる人もおられるのではないのでしょうか。「レポートの件数が少ないほど安全で、多いほどミスばかりしている危険な病院なのではないか…」と。しかし安全管理の考え方の根本に「ヒューマンエラー」や「ヒューマンファクターズ」といったものがあります。これは簡単に言うと、人間である限り失敗は付きものであり、最初からそれ



インシデントレポートが多い部署の表彰式

を織り込んで考えなければ安全は向上しない、という考え方です。それは当然とも言えます。医療従事者はロボットでもコンピューターでもない生身の人間なので。そして医療現場で起きるミスは、誰もが日常生活で体験するミスと大きく異なるものではありません。どれだけ気を付けていても暗い場所では小さな字を読み間違えるし、二人から同時に話しかけられれば何かを聞き落とすし、大きなものを持っていれば段差につまずくし、風邪薬の服用やちょっとした心配事で集中力は低下するわけです。

医療安全管理者ならほとんどの方が知っているであろう「TO ERR IS HUMAN」という本があります。安全な医療システムを構築するための知識や技術に言及している本ですが、タイトルの和訳こそ「人は誰でも間違える」であり、上記の考え方を表しています。

つまるところ、病院に限らず人間が関わる施設で、全くミスの無い完璧な施設などは有り得ないというわけです。それどころか小さなエラーは頻繁に起きていると考えるのが妥当です。

すると報告が無いということは、実際にはエラーは起きているのに、それが情報として共有されずに埋もれてしまっているということに他なりません。

これが、「インシデント報告は多いほど良い」とする理由です。

インシデントや医療事故の情報を収集している日本医療機能評価機構は、「事故報告0であった施設」の数を公表しています。これは事故が無かった事を賞賛しているものではありません。事故は避けられないもので必ず起きているのに、その報告を怠った施設があることを責

めているのです。これは、そのまま個人の振る舞いに当てはめても良いと思います。

当院では、部署ごとのインシデントレポート数を集計し、一人あたりの報告件数が最も多かった部署を「安全向上に貢献した」として表彰する試みも始めました。

失敗から学び、少しでも安全な体制を整え、より良い医療を実現していくためには、何はともあれエラーやミスを報告するところから始まるのです。



フィリピン台風被害への募金活動

平成25年11月8日、フィリピン中部を襲った台風30号。死傷者は1万人に上るといわれ、3.11を経験した我が国にとっても、決して人ごとではない災害でした。3年前、海外からも多くの支援を受けて、我が国も復興に向けて動いております。本法人（(医) 仁風会並びに(有)エム・エム・エス）で少しでもフィリピン台風被害への支

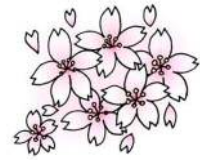
援ができればと考え、12月17日から25日までの短期間ではありましたが募金活動を致しました。

本法人の多くの有志の協力を得ることができ、12月27日（金）に松江市内中原町の日本赤十字社島根県支部を訪問し、



日本赤十字社島根県支部にて

「2013年フィリピン台風救援金」として、44,400円を募金することができました。



禁煙委員会

禁煙化への取り組み

大塚 修二

当院では、平成24年7月に病院敷地内全面禁煙を目的に禁煙委員会を立ち上げました。まず、喫煙していた患者さん、職員に対しタバコについてのアンケートを実施、タバコと健康に関する情報揭示、学習会開催などを行いました。このように病院敷地内禁煙化に向け段階的に周知を行いながら、喫煙される方への急激な変化とならないよう、病棟の喫煙時間を何回かに分け短縮して行きました。最終的に25年2月1日より、禁煙への理解を深められたと判断し全面

禁煙を実施しました。

事前に想定された病状の悪化や、隠れ喫煙による火災の恐れ、患者さん、職員の理解が得られないなどの問題もほとんど無く、順調に最初の1年のスタートが切れたように思います。ご理解頂きました、皆さまありがとうございました。今後とも敷地内全面禁煙を安全に継続していけるよう、皆さま方のご協力を引き続きよろしくお願い致します。

《追記》…これを機に禁煙された方がたくさんおられ、顔色もよくなり健康増進され、以前にも増して素敵になっておられるなあと思う今日この頃です。



行動制限最小化委員会

目の前の患者さんとどう向き合うか

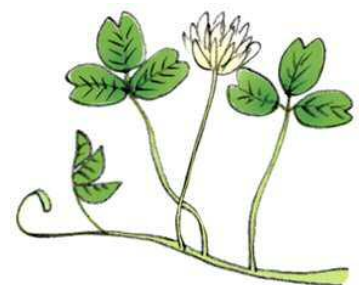
戸谷 亜矢子

「行動制限最小化委員会」は、平成16年度診療報酬の改定を受け設置が義務付けられた委員会です。非自発的入院においては、治療上行動制限を余儀なくされる患者さんは少なくありません。当委員会は医療保護入院等に係る患者さんに対する行動制限を必要最小限のものとし、人権への配慮が十分なされた処遇の徹底を目標に活動しています。メンバーは精神保健指定医を委員長とし、各病棟の看護師、精神保健福祉士で構成されており、月1回各病棟の行動制限の状況についてチェックするとともに、妥当性や問題点、改善点

等を話し合っています。そして、一つの病棟から出された課題も、院内全体に検討内容を周知し、職員教育に努めています。

さまざまな専門職が日々患者さんと接していますが、精神保健福祉法はじめ行動制限に関する諸事項は精神科病院に勤務してから学び始めることが多いと思います。行動制限とはなにか、なぜ必要な場合があるのか、どのような手順で手続きがなされているのかなど、基本的理解の統一はもちろん必要です。目の前にいる患者さんの人権を尊重するためわれわれ医療従事者はどのような姿勢で関わ

るのか、当たり前ですが目に見えない最も大事なことを心に留め委員会活動を行っていきたいと思います。



あじさいの会

あじさいの会とは、八雲病院に通院中の患者さんと職員が自主的に集まり、イベント等を計画して、それを通じて「友達の和」を広げて行きましょうというソーシャルクラブ（外来患者さんの交流会）です。

清水寺に行ってきました！

小原 福子

11月のあじさいの会では、この時季恒例の紅葉狩りに、安来市の清水寺に行きました。

移動の車の中からも外の景色を見て紅葉を楽しみながら清水寺に到着しました。清水寺に到着すると小雨が降り出しましたが、雨の景色もまた良く、色づき始めた紅葉の葉もとてもきれいでした。紅葉以外にもお寺を参拝し、お守りやお土産を見て回り楽しいひとときを過ごすことができました。

その後、道の駅「アラエッサ」に立ち寄りしました。昼食をとりショッピング。この頃になると雨も上がり、周囲を散策したり、安来の名産品や地元の新鮮な野菜や果

物を見たり買ったりしました。そしておやつにはできたてのスイーツにかぶりつき、皆さんご満悦でした。

帰りの車の中では、朝はぎこちなく挨拶を交わしていた方々も打ち解け合い、楽しい出来事を振り返りながらおしゃべりをして盛り上がっていました。

今回は雨の紅葉狩りとなりましたが、皆さんから「良かった」「ありがとう」と言って頂くことができ、ここでの楽しい1日の出来事が皆さまの思い出の1ページに新たに刻まれたことと思います。



紅葉の清水寺

みんなで楽しく年忘れ

貝谷 昭

八雲病院ソーシャルクラブ（外来患者さんの交流会）「あじさいの会」で、12月15日に忘年会を行いました。ちゃんこ鍋とすき焼きの昼食とケーキ、カラオケ、プレゼント交換と盛りだくさんの内容でした。

男性のメンバーが多かったですが、食材の買い物や調理など皆さん手際よくされていました。また昔から参加されているメンバーも多く、食事中は「もう年

取ったわ」「昔みたいに食べられんね」という声もありました。

来年度についての話もしましたが、「メンバーのなかにはデイケアなど障がい福祉サービスを利用していない方もいるので、あじさいの会は貴重な交流の場」「屋内スポーツなどもしてみたい」といった意見が出ました。

参加されるメンバーは毎回の企画で違いますが、意見を聞きながら今後も交流の場として続け

たいと思っています。



たまごさんからの お便り



平成25年11月14日・15日に1人、12月13日・16日に1人の松江西高校の生徒さんがヘルパー実習で、11月20日・21日に湖東中学の生徒さん2人が福祉体験学習でホームに来られました。

それぞれ、入居者の皆さんと「コミュニケーションがとれるようになる」「安心して一緒に過ごしていただけるよう接したい」などの目標を持ち、レクリエーションなどに参加されました。

入居者の皆さんも「孫みたいでかわいい」とか「学生さんも大変だけど、社会学習だね」など声をかけたりされ、中には実習終了の挨拶時に握手をして涙ぐむ方もおられました。

(貝谷)

生徒さんの挨拶に涙ぐむ入居者さんも 中学生・高校生が雲陽の里で体験学習



レクリエーションに参加される
生徒さん(左)



一緒にゲームを楽しむ



入所者の方と談笑される
生徒さん



★がおるさんのミニクイズ★

- ①～⑤の下線部に入る言葉を右側のa～eの言葉と線で結びましょう

① _____ 回しの名人。	•	• a 流石
② 今年も _____ 品種を作ります。	•	• b 土筆
③ 祭りの案内は _____ の私です。	•	• c 早稲
④ 花粉症の方は _____ に要注意。	•	• d 独楽
⑤ _____、流石、ながれ石。	•	• e 案山子
- ことわざ問題。左側の文章に当てはまる右側の4文字熟語を完成させて下さい。
 - ① 初めに思い立った志を変えないで最後までやり通す。→□ 志 □ 徹
 - ② 心に汚れが無く、清らかな様子。→純 □ 無 □
- 映画の問題です。
 - ① 現代キャリアウーマンと19世紀の男性が恋に落ちる。19世紀のNYで理想の女性と出会えないと嘆くレオポルド公爵。ブルックリン橋から転落、現代にタイムスリップ、広告会社に勤務する現代女性ケイトと出会う・・・この映画のタイトルは？
 - ② アンディは妻とその浮気相手の男を殺した罪で服役。長い服役生活を銀行家としての手腕でより良いものにしていくが鮮やかな幕引きも忘れがたいこの映画はモーガン・フリーマンも出ていますね。レンタルしてみたいはいかがですか？

※答えは、7ページ下にあります。

地域連携を 考える

～思い、花開いて～ クリスマスライブ 2013



今回で第14回となるクリスマスライブは4組のグループが集い、平成25年12月21日(土)午後2時からピ・フレンディングにおいて開催されました。オープニング・アクトとして、雲陽の里の貝谷所長が「種の歌」(小山卓治作曲)を歌い、「皆さんのいろいろな思いや歌がつながり、花開いてゆくといいなと思います」と挨拶しました。

初出場のクローバーさんは、音



ギター演奏するクローバーさん

楽テープとギター演奏で、「イムジン河」や「岬めぐり」などをほのぼのとしたテンポで演奏。「とても緊張しましたが、無事終わることができて良かったです」と感想を述べられました。

これまた初出場のMusic de Hearnはヘルンの怪談話の紙芝居の後、サクソソロの演奏をし、「アンパンマンのマーチ」や演歌、ジャズなど幅広く演奏され、観客を魅了しました。

樋野峰久さんは例年通り、オリジナル曲を熱唱。最近では、インターネットを通してミュージシャン同士の交流があり、合同での楽曲も紹介されました。樋野さんの演奏の前に、今年2月に急死された吉岡幸二さんのご冥福を祈り、参加者全員で黙とうを捧げました。生前吉岡さんと親交のあった樋野さんも「ショックでした。とても残念です」と話されました。

最後に、つくしさんが登場。風邪

演奏者で記念撮影しました



をひいてやむなく休んだメンバーもおられました。参加されたメンバーが一生懸命に歌い上げられました。4曲全てオリジナル曲で、「夢に向かって」は参加者の皆さんのところが温まり、東日本やフィリピンを含めて世界が前にむかってゆけばいいな、と感じる一日でした。次回は夏を予定しています。たくさんの方のご参加をお待ちしております。

(森脇)

熱のこもる 寸劇に 涙する場面も

平成25年度
第2回家族交流会

平成26年1月26日、今年度第2回家族交流会がピ・フレンディングにおいて開催されました。ご家族の方12人、関係者10人の参加でした。

いつものように、前半では、寸劇を通して、分かりやすく対応方法や資源活用についてお伝えし、後半では、グループに分かれて日頃の思いなどを懇談しました。

寸劇の今回のテーマは「抱え込まないように」でした。寸劇スタッフの思いが入り、寸劇中涙を流すシーンもあり、ご覧いただいていたご家族の中で、すすり泣かれる

人もありました。参加された感想として、「とてもよく分かった」「また参加したい」などの声が聞かれました。

(森脇)



演技に集中するご家族

クイズの答え

- 1・こま 独楽 2・わせ 早稲 3・かかし 案山子 4・つくし 土筆 5・さすが 流石
ことわざ問題 1・初志貫徹 2・純真無垢
映画の問題 1・ニューヨークの恋人 2・ショーシャンクの空に



わたくしたちは心の声を大事にします
わたくしたちは医療水準の向上に努めます

わたくしたちの理念

八雲病院

医療法人仁風会

○八雲病院外来診療時間午前中のみ

平日8:30—12:30 / 土・日曜日 8:30—11:30

休診日 第1・第3・第5日曜日, 祝日, 土曜日の午後

松江市大庭町1460-3 電話(0852)23-3456(代表)

FAX(0852)23-3495

○デイケアたんぽぽ(精神科デイケア) ※お問い合わせは代表まで

月曜日—金曜日 午前9:30—午後3:30

○デイケア八雲(重度認知症デイケア)

※お問い合わせは代表まで

月曜日—金曜日 午前9:00—午後3:40

○コスモス(指定障害福祉サービス事業所)

松江市大庭町1459-1 電話(0852)23-3360

FAX(0852)23-3370

○ビ・フレンドリング(地域活動支援センター・相談支援事業所)

松江市大庭町1461-3 電話(0852)23-4111

FAX(0852)23-4112

○雲陽の里(認知症グループホーム・介護保険)

松江市大庭町1459-1 電話(0852)23-3700

○八雲ハイツ(精神障害者グループホーム)

松江市矢田町107-4

ご意見箱

広報誌「遊便」に対するご意見・ご感想などございましたら、ぜひ下記までお寄せいただくと喜びます。今後とも医療法人仁風会、広報誌「遊便」共々よろしくお願ひ致します。

〒690-0033

松江市大庭町

1460-3 (医)仁風会

広報委員会 まで

編集後記
八雲病院の敷地内には、時節ごとに花が咲き、目を楽しませてくれます。
コスモスと雲陽の里の間に植えてある紅梅は、今年も鮮やかな花をつけ、春の訪れを教えてくださいました。
患者さんと散歩中に見に行き、「いい香りだね」「春ですね」と語り合う今日この頃です。

広報委員 浜岡

【ご案内】

